

2025 年度 第 1 回 (公社)新潟県栄養士会理事会 開催議事録

1. 日時 2025 年 5 月 8 日 (木) 18:00～20:40

2. 場所 Web 会議 (Zoom)

3. 理事現在数および定足数ならびに出席理事数およびその氏名

理事現在数 25 名 定足数 13 名

出席理事数 25 名

出席理事の氏名 斎藤トシ子、村山稔子、高橋洋平、山田祥子、北林紘、伊藤涼子、
治田麻理子、石墨清美江、竹内瑞希、久志田順子、佐々木佳子、
内田悠香、中俣裕子、山岸美恵子、金子幸子、鶴川一寛、村山千晶、
内山智子、土田直美、堀川千嘉、丸山朝美、小林昌子、
渡辺絵里子、斉藤幸子、山川琴栄

欠席理事の氏名 なし

4. 顧問現在数および出席顧問氏名

顧問現在数 2 名

出席顧問数 2 名 入山八江、折居千恵子

5. 監事現在数および出席監事氏名

監事現在数 2 名

出席監事数 2 名 角谷ヒロ子、大平真由美

6. その他出席者

事務局長 阿部幸子

次期事務局長候補 石月公美子

三条支部 副支部長 澤口聡子

7. 議長の氏名 斎藤トシ子

8. 理事会の議事の経過の要領およびその結果

山田専務理事より下記の確認がなされた。

- ・配布資料ならびに追加資料。
- ・Web 会議システムにより、出席者の音声と映像及び挙手などの意見表示が互いにできる
こととなっていること。

(1) 定足数の確認

出席者について、阿部事務局長により参加者数の確認がなされ、冒頭で山田専務理事が定足数の充足を確認し、本会議の成立を宣した。

議事・進行を会長へ渡し、議事に入った。

(2) 会長挨拶

斎藤会長より、参加理事に向け、昨年度理事になられ一通りの事業をこなしてこられた活動評価をもとに、より効果的な活動展開の期待が伝えられた。しかし本年度予算については厳しい状況にあり「お金をかけずに知恵を絞っていかなければならない」ので、是非お力添えをお願いしたいと示された。

(3) 議案の審議状況および議決結果等

①第 1 号議案 2024 年度事業報告について（総会資料 P2-17）

山田専務理事より総会資料に基づき、下記補足事項含め説明がなされた。

- 1 高齢者対策では、特定費用準備金を活用した CS セミナーは「フレイル」をテーマに 6 回実施し、好評を得た。
- 2 生活習慣病予防・重症化予防では、長岡市より糖尿病性腎症の委託を受け、長岡支部で実施された重症化予防の栄養指導は、多くの対象者に向け実施された。
- 3 災害支援対策では 2024 年度元旦に発生した能登半島地震より、災害整備事業が急務であったことから、体制整備を事業部中心に行っていただいた。また JDA-DAT リーダーを中心にスタッフ養成研修、能登半島支援活動報告など活発な活動が行われた。
- 4 会員減少の中での会の運営では、入会増対策については会員増対策委員会を発足し、検討が行われた。

・ p 3～17 の事業報告については各自に確認が促され、説明は割愛された。

▶質問・意見は挙がらず、賛成多数により原案通り承認された。

②第 2 号議案 2024 年度収支決算報告について（総会資料 p 18-30）

阿部事務局長より総会資料に基づき説明がなされた。

- ・ p 18-19「正味財産増減計算書」について
どのような収入があり、どのように使い、最終的にいくらプラスマイナスかということを表しているものである。
- ・ p 18 経常収益計（収入の合計）は、3,400 万、p 19「経常費用計」（いくら使ったかの合計）は、3,300 万であった。p 19「登記予算会計収支差額」（いくら残ったか）を見ると、53 万の黒字決算となった。
- ・ p 20 の正味財産増減計算書内訳表は、収入と支出に対して公益 1.2.管理費に振り分けた内容である。ここで注視していただきたいのは、法人管理条件があっているか否かの部分である。具体的には、公益目的事業費経常収益計の小計が 2,600 万、経常費用計（公益事業で使った金額）の小計が 2,800 万となっている。公益事業で儲けてはいけけないので、収入から支出を引いた額がマイナスでなければいけないが、2024 年度の当期予算会計収支差額の小計は、マイナス 130 万であり、公益事業は赤字決算になっているため、公益法人としての条件を満たしている。

- ・さらに、経常費用計小計の 2,800 万は、経常費用計合計の 3,380 万に対し、50%以上の公益支出でなければならないが、2024 年度は 82.9% (2,800÷3,380) を公益事業に使っているため、法人の条件を満たしていることとなり、2024 年度の法人会計はクリアされている。

- ・ p 21 は、各事業別の収入・支出の予算と実績を表している。

各支部・職域における事業が予算通りに支出しているかを確認しているものである。

- ・ p22～は、県栄の資産状況を表している。

- ・ p27～は、1 年間の現金の流れが示されている。

▶質問・意見は挙がらず、賛成多数により原案通り承認された。

③第 3 号議案 会務監査について（総会資料 p 31）

角谷監事より総会資料に基づき、下記補足事項含め説明がなされた。

- ・ 4 月 21 日新潟県栄養士会事務局にて、斎藤会長、山田専務理事、阿部事務局長より 2024 年度会務執行状況について説明いただいた。

- ・ 監査委員大平真由美、角谷ヒロ子 2 名により会務監査が行われ、全て適正であることを確認した。

斎藤会長より、総会資料には署名・押印されたものと差し替えを行う旨が示された。

▶質問・意見は挙がらず、賛成多数により原案通り承認された。

④第 4 号議案 2025 年度事業計画（案）について（総会資料 p 32-39）

山田専務理事より、資料に基づき説明がなされ、3 月理事会で承認された各事業内容であり、日程等が記載されているので各自確認の旨が伝えられた。

▶質問・意見は挙がらず、賛成多数により原案通り承認された。

第 6 号議案承認後、斎藤研修部長より、栄養士研修会（大会）について、対面にするか Web 配信にするか、常任理事会にて結論に至らなかったため、理事へ意見が求められた。

斎藤会長より、対面または Web のいずれにおいても、予算は 2025 年度事業計画で打ち出されている予算であること、対面または Web それぞれに一長一短があることを踏まえ、昨年参加した理事の方々に、意見が求められた。

<3 役会で検討された案>

内容：対面（講義、県の情報提供、ポスター発表、JDA-DAT 活動報告）

期日：11 月 1 日、半日

<意見>

村山理事） 去年の午前（講義）に重きを置くのであれば web で良いのではないか。

午後（会員交流）に重きを置くのであれば対面が良いのではないか。

治田理事） 新潟県のイベントで全員参加を考えると Web が良いのではないか

ポスター発表は学会の発表の練習になるため対面が良いのではないか

伊藤理事） 参加しやすいのは Zoom

日程が早めに周知されているのであれば対面で良いのではないか

- ▶結論：いただいた意見、その他研修予定（11月9日のJDA-DAT研修など）も踏まえ、後日研修部、学術部、三役で検討することとした。なお、今後、その他の意見があればメールでもお寄せいただくよう依頼があった。

⑤第5号議案 柏崎支部_新事業計画（案）について（資料p3）

山田専務理事より資料に基づき、下記補足事項含め説明がなされた。

- ・柏崎支部においては公益事業が全くない状況であったが、本日、柏崎支部より、柏崎市歯科医師会、柏崎市、教育委員会主催「歯の健康展」の依頼があった。既に新事業の承認は終了しているが、理事会の審議事項にしていきたい。

- ▶質問・意見は挙がらず、賛成多数により原案通り承認された。

⑥第6号議案 2025年度事業予算（案）について（総会資料p40-・資料p4）

阿部事務局長より総会資料に基づき、下記補足事項含め説明がなされた。

- ・令和7年度正味財産増減計算書では、（p40 経常収益計）は3,740万、支出（p41 経常費用計）が3,746万、差額は7,800円であり、先述の柏崎事業を含めた差額は3,400円となる。
- ・令和7年度正味財産増減計算書内訳表（p42）では、公益1.2.管理費についても法人条件は満たされている。
- ・黒字予算とはいえ、差額は少額であるため、p43 各事業別の予算に基づき、オーバーしないよう実行していきたい。

更に阿部事務局長より、次第資料p4に基づき、下記補足事項含め説明がなされた。

- ・会員数毎年40人減、現在1,000名未満、今年は伸びが悪く深刻である。
- ・2008年から会員400名減、会費（収入）約600万円減である。
- ・本年度新入会19名であり、うち新卒者は2名である。
- ・残高について、2022年430万円、2023年度130万円、昨年度53万円、本年度3,400円と収入は減り支出が変わらない。このような経過が続くと赤字に転じるのは明らかである。各事業予算を超えないようにして欲しい。
- ・生涯教育の申し込み者数がかなり少ない。例年1講座160名のところ本年度40名である。締め切りまでに積極的な参加勧奨をお願いしたい。

事業予算について、下記の質問と回答がなされた。

Q1：北林理事）2025年度会員の退会届はどのくらい出ているか。

A1：阿部事務局長）退会届数は現時点では把握していないが、退会理由は退職した、会費が高いなどである。

Q2：北林理事）仮に赤字になった場合、栄養士の存続はどうなるのか。銀行または日栄からの借入れをするのか。

A2：阿部事務局長）借り入れはない。現在単年度決算の残高のプールから取り崩し使用しているが、会員数は減り（収入減）、事業支出は変わらないため、事業を思い切って見直す必要が出てくる。

▶他質問・意見が挙がらず、賛成多数により原案通り承認された。

⑦第7号議案 事務局長任免について（資料p4）

山田専務理事より、資料に基づき石月公美子氏推薦（案）が示された。

▶賛成多数により原案通り承認された。

阿部事務局長より下記の挨拶をいただいた。

- ・5年の従事に対する感謝の意。
- ・全くわからない業務が多かったが、いい経験となった。
- ・事務局の能力といい方ばかりで助けられ、財産となった。
- ・しばらく引き継ぎを行う予定である。

石月次期事務局長より下記の挨拶をいただいた。

- ・偉大な阿部事務局長の後任及び財政難の現状で非常に気が重い。
- ・仕事内容も全くわからないので戸惑っている。
- ・会議内容にもついていけず力不足を感じているが、よろしく願いたい。

（4）報告

①三役執行業務報告（2024.10～2025.3 分）について（p5-8）

斎藤会長、村山副会長、高橋副会長、山田専務理事より、資料に基づき報告がなされた。

②災害マニュアル一部変更について（資料3 災害マニュアル）

土田災害支援担当より総会資料に基づき、下記補足事項含め報告がなされた。

- ・事業部及び災害対策委員会でマニュアルが策定された。
- ・赤字が追記事項である旨が説明された。
- ・時系列別・組織別概要表では平常時の活動にボリュームがある。災害時だけではなく日頃の活動の中で意識していく必要性が示された。
- ・アクションカードは、発災から本部立ち上げ、各自の役割・活動が示されている。
- ・別添3に記載のある『4つの柱』は平常時から必要な活動であり、「新潟県災害時栄養・食生活支援活動ガイドライン」（暫定版）に位置付けられていることがポイントである旨の説明がなされた。
- ・新潟県栄養士会（JDA-DAT）は、行政、保健医療活動チーム、保健所と連携・活動する位置づけになっている旨の説明がなされた。

③JDA-DAT スタッフ教育研修について（資料p9・追加資料）

土田災害支援準備デスクより資料に基づき、下記補足事項含め報告がなされた。

- ・本研修はスタッフ養成研修を実施しない年に行うものであり、日栄のガイドラインに目標や研修時間 6 時間が定められている旨の説明がなされた。
- ・本年度の研修内容はマニュアルの試行・研修（アクションカードを用いたシミュレーション）となっているため、執行部理事（支部理事及び職域事業部理事）の参加が示された。

④2024 年度養成校卒業生に向けた入会案内について （資料 p 10-11）

山田専務理事より、資料に基づき下記補足事項含め報告がなされた。

- ・理事の皆様の職場で採用された管理栄養士・栄養士に登録勧奨すること、また後日行われる支部・職域役員会で共有かつ会員へも情報共有拡大するなど、登録勧奨協力が求められた。
- ・非会員向けのチラシについては、新たに作る予定ではあったが、日栄のチラシを活用すること、また 80 周年記念事業でも印刷し活用する旨の説明がなされた。

入会案内チラシについて下記の質問・確認がなされた。

Q1：北 林 理 事）チラシの印刷費用を一般用 1000 部、学生用 500 部、予算 3 万円、郵送費 2,000 円の予算を計画していたが、日栄チラシを 1,500 部印刷し、80 周年記念事業や職域・支部で欲しい方に郵送する方法とするのか。卒業生用は次年度にむけてどのようにするのか。

A1：斎 藤 会 長）メールで PR コードを読み込んでいただく、または、養成校教員にメール配信し、それを学生に配信していただく方法ではどうかと考えていたが、紙ベースは必要かの確認がなされた。

→北 林 理 事）支部交流会があるため、非会員へ渡すために紙ベースがあると良い。

→竹 内 理 事）タイミングによるが、卒業式の場合、保護者への紙配布は効果的。メールはスルーされる。

- ▶結論：予定通り、事務局より業者へ 1,500 部印刷注文する。各支部・職域は、必要部数を事務局へ連絡し、郵送で送る。2025 年度の卒業生についても、印刷したものを養成校の担当者に送ることとした。

チラシについて以下の補足説明がなされた。

- ・カラーのため事務局での印刷は高価のため印刷業者へ依頼した方が安価である。
単価 18 円で計算しているが、それは業者価格である。（阿部事務局長）
- ・日栄の入会チラシは、日栄のサイトに掲載されている。（斎藤会長）
【お知らせ】あなたの隣の管理栄養士・栄養士に！メール登録勧奨チラシ配布のお願い | お知らせ | 公益社団法人 日本栄養士会
- ・今年度の卒業生に向けた入会チラシのメール配信が卒業後になってしまったため、職域においても日栄のチラシを活用した入会案内をお願いしたい。（斎藤会長）

⑤定時総会・80 周年記念事業集客について （資料 p12）

山田専務理事より資料に基づき、資料に基づき下記補足事項含め報告がなされた。

- ・4 月末時点での申込状況は学生 250 名、会員 71 名、うち理事 14 名である。執行部である理事の参加登録が依頼された。

- ・5/19、全会員へ総会資料にパンフレットを同封して郵送する。
- ・新潟市中央区だより掲載決定、区役所・公民館にも配布し周知を図った。
- ・会場は466名入る会場であり、賛助会員様にとって、管理栄養士・栄養士に見ていただきたい期待があるため、理事各位より、会員・非会員問わず管理栄養士・栄養士への参加勧奨協力が依頼された。

また他支部の参考になるよう、各支部・職域でどのような声掛けをしているか、周知・勧誘の取り組み方策について下記の情報共有がなされた。

鶴川理事）支部内にメール配信と地域自治体に配布を行う。

非会員へは、会員から勧誘する。

記念事業チラシのデータが欲しい。

斎藤会長）事務局より理事へデータ配信をお願いしたい。

北林理事）中村会長の講演内容は、現在日本栄養士会雑誌に連載されている内容か。

斎藤会長）内容は要旨をみないとわからないが、日本の栄養の誇るべきところは、生まれてから亡くなるまでと様々な職域に栄養士を配置したところが日本の栄養政策の成功ポイントであることをお話される可能性がある。どの職域にも参考になる。また栄養士として活動する際、歴史・背景を知ることが重要であるため、皆さんにご参加いただきたい。

治田理事）インスタに掲載するのはどうか。

阿部事務局長）ホームページは現在壊れやすいので、インスタ掲載を実施する。

⑥定時総会司会者について

山田専務理事より口頭にて、渡辺理事に依頼した旨の報告がなされた。

⑦2025年度「栄養のチカラで繋がるプロジェクト」について（資料p13-18）

山田専務理事より資料に基づき、下記補足事項含め報告がなされた。

- ・栄養の日、栄養週間が6～8月に実施される。
- ・日栄のプロジェクトとして『栄養ワンダー』ならびに『ゆいプロジェクト』が企画された。
「栄養ワンダー」は県民に管理栄養士・栄養士の認知度を高めるために、自身の職場や活動先で、指定の資料を用いて情報提供する活動である。
- ・本年度の栄養ワンダーは日本栄養実践科学戦略機構と連携するゼスプリと協働し、キウイフルーツと、ゼスプリの資料を用いて実施されることとなり、5/7、日本栄養実践科学戦略機構から申し込み開始のメール配信が行われたことが伝えられた。

⑧大阪・関西万博参加について（資料p19）

斎藤会長より資料に基づき、県栄より斎藤会長・村山副会長が参加する旨の報告がなされた。

参加報告は、参加後の理事会（10月）で報告する旨が示された。

⑨管理栄養士・栄養士として活動する際にご留意いただきたいこと（資料 p20）

斎藤会長より資料に基づき、下記補足事項含め説明がなされた。

（本項目を議題に入れた背景）

県栄に管理栄養士の研修内容に関して他職種から苦情が寄せられた。事実確認したところ、使用された資料内容が管理栄養士の質を問う内容であり、社会的ニーズに応えられておらず、積極的な研鑽に努められていない様子が伺え、信頼を失わせるものであったことから、このようなことを申し上げるのは、とても心苦しいが、支部長および職域理事には共有させていただいた。資料（P20-21）の内容については、支部または職域間でも情報共有していただきたい旨が伝えられた。

<1.責務>について

- ・記載は抜粋したものであるが、重いものであると受け止めて欲しい。
- ・「生涯にわたり積極的に研鑽する」ことは義務である。すなわち、研修は、受けたい受けたくないということではなくある意味、義務である。
- 2025 年度の生涯学習の参加者が少ないので、積極的な参加を促していただきたい。
- ・管理栄養士の国家資格所取得した限り、義務を果たさなければならない。
- ・栄養指導は医学的な侵襲を持っていること、および健康の保持・増進も広い意味で食事療法である。我々は医療職に位置付けられたため、危険性をはらんだ仕事をしている認識を持って欲しい。

<2.基本的な資質・能力修得項目>について

- ・示された表（栄養学教育モデルコアカリキュラム）は、厚生労働省が日本栄養改善学会に委託し、まとめられたものである。養成校では、これに基づき、管理栄養士として求められる基本的な資質・能力の修得に向け、カリキュラムが組まれている。
- ・キーワードになりそうな用語を、赤字・黒太字で示している。
- ・昨年の栄養士研修（栄養士大会）で、ポスター発表を取り入れた理由は、資料に示されている基本的な資質能力の 9「科学的態度の形成と科学的探究」の修得をめざしたいと考えためである。
- ・自分自身も、仕事をするにあたっては、使命や責務が自分を奮い立たせる心のよりどころになっている。基本的な資質・能力の修得のため、さらには社会的な信頼を得るためにも、生涯教育を念頭におくとともに、自身を振り返る際の参考にして欲しい。

<参考情報>について

- ・日栄において管理栄養士・栄養士の質を担保するにあたり、生涯教育と研究について議論が重ねられてきた。最終的には、一般社団法人日本栄養実践科学戦略機構を立ち上げ、そこで人材育成も行うこととし、昨年から動き出している。
- ・県栄の生涯教育やその他の研修においても、多様な方法（研究助成、e-ラーニング、実践講座、交流など）を駆使した人材育成を考えていかなければいけないと考えている。2026 年度は職域研修、生涯教育プログラム、その他研修等の内容および方法等を整理・検討する必要があると考えている。

上記の説明に対し、理事から以下の質問、意見などが述べられた。

山 川 理 事) Web で生涯教育を受ける以前の集合型の時は、年に 1 回「生涯教育とは」という単元を受講しなければならなかった。

理事に「生涯教育とは」を説明し、会員へ周知していただく、または生涯教育受講者に必ず受講していただく、今回会長から説明いただいた専門職の使命と責務について受講していただくなどの機会を設けてはどうか

斎 藤 会 長) 2026 年度の研修のあり方を検討する際に含めていきたい。

山 川 理 事) 今回の苦情について本人は知っているのか。

斎 藤 会 長) 把握はしていない。

皆自分かもしれないと思い、今回の留意点を努めていかなければならないことを理解して欲しい。

治 田 理 事) 新潟支部役員会で理事会資料を共有しても良いか。

他職種からの苦情があったうえで説明をしても良いか。

斎 藤 会 長) 良い。資料については、後で送信する

土 田 理 事) 公衆衛生事業部でも資料共有し周知する。

先ほど申し遅れたが、行政栄養士配置要望についてご尽力いただくことに感謝し、継続的に行えるよう検討していく。

村山副会長) 各支部・事業部における講師依頼について適任者が見つからない場合は、栄養ケア・ステーションに相談すると、地域のつてで人選に協力していただけるのではないか。

例えば作成した原稿についての相談も可能ではないか。

斎 藤 会 長) 是非栄養ケア・ステーションを活用し、相談していただきたい。

村山副会長) 山川理事の提案について、新人研修向けに 15 分程度の動画がある。2025 年度の生涯教育の動画の最初に追加してはどうか。

斎 藤 会 長) 不参加の方のどのように周知するかが、今後の課題ではある。

村山副会長) 新入会員になった際に受講していただく等、研修部で検討する。

(5) その他

山田専務理事より、下記事項について通達がなされた。

- ・次回常任理事会および理事会の日程について。
- ・理事会の内容は支部・職域で役員だけでなく、広く会員へ共有すること。
- ・4/19 に実施された支部長基金事業説明会后、支部役員間および支部会員間への情報共有を実施すること。また、伝達において、自身の理解不足により他への情報伝達に支障が出ている場合は、恥ずかしがらずに久志田部長へ確認すること。
- ・他機関・他団体から寄せられる支部宛の様々な事業依頼案内文や返答が求められる文書に

については必ず返答すること。また、どのように動いたらわからない場合は事務局へ相談し、自己判断で止めないようにして欲しい。他機関・他職種間の信頼関係を崩さないようにして欲しい。

- ・「管理栄養士・栄養士として活動する際に留意していただきたいこと」および「80周年記念事業のチラシデータ」は斎藤会長から理事に、配信することとした。

(6) 閉会の挨拶

村山副会長より、昨年就任され、わからない中で責任ある仕事に苦勞されてきたことに対しねぎらいと、事業報告より、皆様からの協力により実現したことに感謝の意が伝えられた。

また、本年度は財政難の中でも地域活動は実施していかなければならない状況ではあるが、事業の資金源を考えながら、来年度に向けて縮小できる部分は工夫を視野に本年度の事業に携わり、新役員にバトンタッチできるようにして欲しいと伝えられた。

更に、NHK 朝の連続テレビ小説「おむすび」より、世間に管理栄養士を知らせることができたため認知度を下げないようにしたいことや、6/14 に開催される総会・80周年記念事業の申し込みが依頼され、閉会とした。

—以下余白—

2025 年 5 月 9 日

上記のとおり相違ないことを認めます。

出席代表理事 印

出席代表理事 印

出席代表理事 印

出席監事 印

出席監事 印

議事録作成者 専務理事 山田祥子